令和7年第1回定例会 建設環境委員会 委員長報告(所管事務調査)

ご報告申し上げます。

今期定例会において、建設環境委員会では、3月4日に、入曽駅周辺整備事業の進捗状況について、現地視察の後、関係部課長の出席を求め、所管事務調査を行いましたので、調査の内容について報告いたします。

執行部から、入曽駅周辺整備事業の進捗状況について、説明を受けた後、これに対する質疑を行いました。

はじめに、執行部からの説明の概要について申し上げます。

まず、令和6年度工事の進捗状況について、

入曽駅東口は、以前に信用金庫が建っていた箇所(市道B第749号線(区画道路1号線))の工事が完了し、令和7年1月31日に供用開始した。市道B第749号線から駅に向かう市道B第750号線の車道と歩道の舗装と1号公園の工事を実施している。自由通路付近のシェルターは、工事が完了し、屋根と電気工事が残っている。

道路整備課で進めていた入曽駅入口交差点から信用金庫までの市道B第296号線道路の拡幅事業は、既に拡幅工事を完了し、供用を開始している。

入曽駅西口は、雨水浸透貯留槽を駅前広場内に設置し、東口同様、シェルター工事や駅前広場工事を進めている。

橋上駅舎及び東西自由通路は、令和5年4月3日に鉄道事業者と施行協定を締結し、令和5年7月中旬から工事に着手しており、今年度の工事は鉄骨材料の建方工事から始まり、躯体工事、設備工事と進め、床や壁などの内装や外装の仕上げを行っている。

次に、令和7年度以降の予定について、

土地区画整理事業は、事業区域内の測量や換地処分計画を作成し、権利者の同意を得た上で換地処分へ進み、清算金の交付、徴収事務を行う予定である。

橋上駅舎及び東西自由通路は、跨線橋や駅務室など既存駅舎の解体及び撤去のほか、跨線橋を撤去した際に必要となるホームの屋根の設置や、既存駅舎の出入口を閉鎖する工事などを実施する予定である。

道路整備課で実施している関連事業について、入曽駅西口の県道川越入間線から駅前広場に通じる市道B第313号線の道路拡幅事業は、今年度に路線測量を行い、今後は詳細設計、用地測量を実施し、地権者へ説明する。

また、西口へのアクセス道路である市道B第751号線についても、市道B第313号と併せて地権者交渉を進める。との説明がありました。

次に、主な質疑、答弁について申し上げます。

○事業年数と、事業に対する評価は。との質疑に、

●入曽駅周辺整備事業は、平成30年に基本計画を策定し、令和元年度より本格的に事業を開始し、同年に土地区画整理事業の認可等を得ている。入曽駅周辺の整備は、長年の懸案事項とされていたが、駅前の危険解消や混雑緩和などのため事業を進めてきた。一部であるがまちびらきを迎えることができたことは、一定の評価が得られたと考える。との答弁。

○複合型商業施設が立地したことによる効果は。との質疑に、

●事業者からは、子育て世帯に対する提案や、周辺商店街との連携によるまちのにぎわいの創出に関する提案もされているところであり、入曽駅周辺のにぎわいの創出が期待できる。との答弁。

○入曽駅周辺で過去に火災が起きた際、道路が狭く、緊急車両が入りづらく、一般車両が通行止めとなった。今回の整備は防災上どのような機能を果たすのか。との質疑に、

●県道所沢狭山線から市道B第296号線の半分程度の区間が拡幅されており、市道B第749号線も余裕を持った幅員である。また駅前広場の新設等により、すれ違いが窮屈な状況が解消され、防災面においても寄与すると考える。との答弁。

○東西自由通路について、勾配が生じる理由は。との質疑に、

●階段を上る際に危険が生じないようにするために、階段の1段の高さを抑え、靴を載せる幅をある程度確保する必要があるが、東口側用地幅により、改札の高さまで到達しない状況になってしまう。改札までの高低差を解消する方法を検討し、スロープで対応することとしたことから、勾配が生じている。との答弁。

○東西自由通路の勾配は、バリアフリー法に適合しているのか。との質疑に、

●バリアフリー法の基準より緩い勾配で基準を満たしている。との答弁。

○これまでの事業費と見込まれる収入額は。との質疑に、

●事業費は概算で65億8,900万円。収入額については、複合型商業施設の借地料として9,320万円の歳入を見込んでおり、固定資産税とあわせて、概ね年間1億円を見込んでいる。また、都市再生整備事業交付金として概ね9億3,000万円が今年度までに交付される予定となっている。さらには、エレベーター等の関係の補助金も入る予定。との答弁。

○雨水対策として、貯留槽などの設置状況は。との質疑に、

●入曽駅東口の駅前広場の部分と市道B第749号線脇の2か所の公園それぞれに雨水浸透貯留槽が設置されている。また、複合型商業施設の敷地内にも雨水浸透貯留槽が設置されており、入曽駅東口付近には4か所雨水浸透貯留槽が設置されている。道路の排水を一度浸

透貯留槽に貯留し、道路の雨水管に排水し不老川に排水する。なお、雨水貯留量は、余裕をもって設計している。との答弁。

○今後の事業の詳細は。との質疑に、

●測量や換地処分計画を令和7年度の上期を目途に作成し、地権者に説明し同意のうえで、清算金の交付、徴収を行う予定。との答弁。

○令和8年度の予定は。との質疑に、

●令和7年度で終了させるよう考えているが、区画整理事業の完了の手続きが残る可能性がある。との答弁。

次に、主な意見について、申し上げます。

○駅の入りがわかるよう標識の設置を検討されたい、との意見がありました。

所管事務調査を経て、入曽駅周辺整備事業の進捗状況について、確認することができました。当委員会として、今後も状況を注視しつつ、必要に応じて適宜報告を求め、調査、研究を進めていくことといたします。

以上で、今期定例会において建設環境委員会が行いました所管事務調査についての報告を終わります。